



6 個別評価

(1)達成度…目標をどれだけ達成したか			
評価 B ▼	A : 達成している ( 100%)	= 、 、 の平均値 = 85.0%	
	B : 一部達成していない(100%> 80%)		
	C : 達成していない (80%> )		
$\frac{a}{b}$	$\frac{93.0}{100.0} \times 100 = 93.0\%$	$\frac{c}{d}$	$\frac{77.0}{100.0} \times 100 = 77.0\%$
$\frac{e}{f}$	$\times 100 =$	$\frac{e}{f}$	$\times 100 =$
理由 :	職場研修実施後の業務への反映が十分になされていない。反映できるような、研修内容・方法について検討すべきである。		

(2)必要性…時代変化に適応した事業内容か			
評価 A ▼	A : 適応している	理由 :	高齢化が進み、ノーマライゼーションの必要性が叫ばれる今日、まちづくりや公共施設整備等を推進する職員にとって、福祉に関する体験学習はたいへん重要である。
	B : 一部適応していない		
	C : 適応していない		

(3)経済性・効率性…費用対効果は妥当か			
評価 B ▼	A : 妥当である	理由 :	ノーマライゼーションへの理解を深めることは、技術職員に限らず必要である。障害のある方の貴重な講話や体験学習の機会を全職員を対象として幅広く実施すべきと考えられる。
	B : 一部妥当でない		
	C : 妥当でない		

(4)事業の代替性…県、民間との役割分担のあり方から見て、市が実施していくことが適当か			
評価 A ▼	A : 代替の可能性ない	理由 :	まちづくりや公共施設整備等の推進を目的とした研修であるので、市が自ら実施していくことが適当と思われる。
	B : 代替の可能性低い		
	C : 代替の可能性高い		

(5)市民満足度…対象市民の満足は得られているか			
評価 B ▼	A : 満足できる	理由 :	理解度はかなり高いが、即業務への反映は難しい面がある。研修の方法等について検討するとともに、各職員が前向きな業務の遂行によって、徐々に市民の満足へとつながっていくものと考えられる。
	B : 一部満足できない		
	C : 満足できない		

(6)有効性…当該事業は上位の施策を実現する上で有効か			
評価 A ▼	A : 有効である	理由 :	障害のある方の生の声を聞き、福祉について体験学習することは、バリアフリーの視点に立ったまちづくりや公共施設整備の推進に欠かせない研修である。
	B : 一部有効である		
	C : 有効でない		

<p>評価バランスチャート</p>	成果向上の余地	
	<input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない	<b>説明 :</b> 体験学習の箇所や方法について検討することによって、より業務への反映が可能となると思われる。
	コスト改善余地	
	<input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない	<b>説明 :</b> 技術職員に限定せず、福祉部等の職員にも対象を拡大することで、コストを改善する余地がある。

7 総合評価

評価	A ▼	他自治体の類似事業との比較	
今後の進め方		説明	4回の研修によって、市職員としての意識の向上等、一定の研修の効果が得られたと思われるが、経済性・効率性、市民満足度においては、改善・検討の余地がある。対象を拡大して、他の部との共同実施を検討するとともに、まちづくりや公共施設整備事業にさらに反映できる研修の内容について、再検討していきたい。
<input type="checkbox"/>	継続		
<input checked="" type="checkbox"/>	見直し		
<input type="checkbox"/>	廃止		
<input type="checkbox"/>	完了		

8 二次評価における変更点

--